

# 精巣凍結による系統保存法のご案内

BRCにおきましては5月20日に寄託・提供業務の一部再開のお知らせをいたしました。生体マウスによる寄託受入れにつきましては、受入れ体制が整うまで今しばらくお待ちいただくようお願いいたします。

このため、寄託をご検討中のマウスの飼育継続が困難で、凍結精子の作製も難しい場合は、当面の間、「精巣凍結」による方法でも寄託受入れを致します。生体化に際しては、BRCにおいて顕微授精により実施致します。ご希望の方は [animal@brc.riken.jp](mailto:animal@brc.riken.jp) までご連絡をお願い致します。

凍結プロトコールは、次ページの通りとなります。ご不明の点がございましたら、[atsuo.ogura@riken.jp](mailto:atsuo.ogura@riken.jp) までお問い合わせください。

- 準備して頂くマウス: 1系統につき2頭の雄(2ヶ月齢から繁殖可能期まで)。
- 準備して頂く容器: クライオチューブ(1系統につき4本)、紙製フリーズボックス
- 練習・必要時間: 練習は必要ありません。1系統につき約5分で終了します
- 対応系統: C57BL/6、DBA/2、C3H/He、129、BALB/c、ICR など、主な近交系および outbred 系を背景とした系統。ただし、精子形成に影響を与える遺伝子改変系統や未確認の遺伝的背景をもつ系統は、生体化できない場合もございますので、予めご相談をお願い致します。

# 精巣凍結による系統保存法のプロトコール



- 1) 精巣と精巣上体を脂肪とともに取り出す
- 2) 精巣と精巣上体をクライオチューブへ(片側分で1本)
- 3) 紙製フリーズボックスにチューブを並べてそのまま $-80^{\circ}\text{C}$ のフリーザーで凍結(写真右の細胞保存用のコンテナも利用可)

- 精子DNAは分解しやすいので、安楽死後、速やかに作業開始をお願い致します。
- 出生率が落ちますので、液体窒素には投入しないようお願い致します(右図参照)。
- 生体化の際は、出生率の高い**精巣内精子**を用います(右図参照)ので、必ず精巣を忘れずに保存をお願い致します。精巣上体は予備となります。
- 1系統2頭分の精巣・精巣上体を計4本のクライオチューブへ分けて保存をお願い致します。

